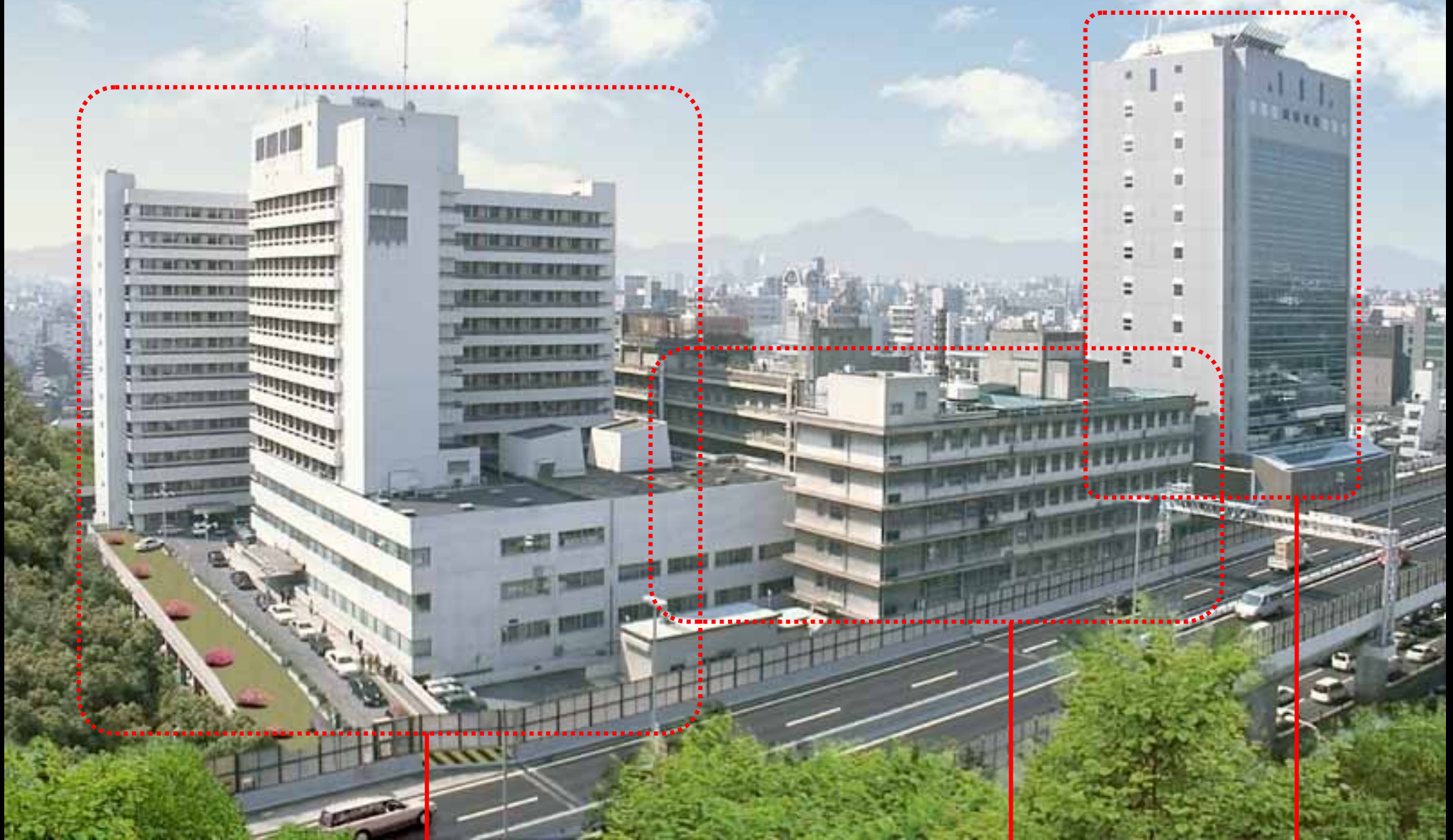




地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪府立成人病センター



S52

S40

H13

概要

- 病床数 500床
- 職員数 常勤732名（H22.4）
（うち医師106名 看護師448名
コメディカル108名）
- 土地・建物 土地：23,020m²、延床：61,002m²
（病院棟：地上12階、地下1階）
- 診療概況
（H21年度）

病床利用率	87.9%
平均在院日数	16.8日
1日平均外来患者数	1,073人/日
新入院患者数（年）	9,319人/年

沿革

- ・昭和34年9月 **大阪府立成人病センター発足**（循環器部門40床）
- ・昭和36年4月 **がん部門整備**（29床増床）
- ・昭和52年9月 **成人病専門病院として新病院開設**（260床。昭和54.に500床に増床）
- ・平成13年7月 **新研究所開設**（大阪府立健康科学センターと合築）
- ・平成18年3月 **特定機能病院に認定**（全国で82施設）
- ・平成18年4月 **地方独立行政法人大阪府立病院機構発足**
- ・平成19年1月 **都道府県がん診療連携拠点病院に指定**（都道府県に一つ）
- ・平成19年7月 **治験拠点医療機関に指定**（全国で40施設）



組織

成人病センター

病院

診療局（24診療科）
検診部（2診療科）
看護部
薬局
教育研修センター
医療情報部
地域医療連携室
患者総合相談室
がん相談支援センター

がん予防 情報センター

企画調査課
疫学予防課

研究所

生物学部門／生化学部門／病理学部門／
病態生理学部門／分子生物学部門／
分子遺伝学部門／免疫学部門（7部門）

事務局

経営企画G／医事G／施設保全G
総務・人事G／経理G（5グループ）



成人病センターの役割

がんと循環器疾患の専門医療施設

- 成人病医療の水準向上に貢献 -

特定機能病院

- 高度先進医療を実践 -

都道府県がん診療連携拠点病院

- 大阪府のがん対策推進の中心的役割 -



成人病センターの役割 - 1

がんと循環器疾患の専門医療施設

- 成人病医療の水準向上に貢献 -

- ・ 昭和34年にわが国初の成人病センターとして設立
 - ・ 現在「がんと循環器疾患」に特化
 - ・ 特に難治性がん(肺・食道・肝胆膵 等)を中心とする高度先進的な医療を推進
- ・ 病院 / がん予防情報センター / 研究所が一体となってがん克服に向け活動

病 院

がんと循環器の診断・治療・臨床研究

がん予防情報C

がん登録など基礎的情報の収集分析と有効ながん予防対策の立案

研 究 所

生命科学の先端技術を用いた新しい治療法の研究



成人病センターの役割 - 2

特定機能病院

- 高度先進医療を実践 -

- ・高度先進医療の治療・研究・教育を担う基幹施設として国が認定
- ・全国の大学病院、国立がんセンター、国立循環器病センターと並ぶレベル

公立病院としては全国唯一

特定機能病院 全国で82施設

(内訳) 大学病院の本院 : 79施設

国立高度専門医療センター : 2 施設 (国立がんセンター中央病院と国立循環器病センター)

公立病院 : 1 施設 (成人病センター)



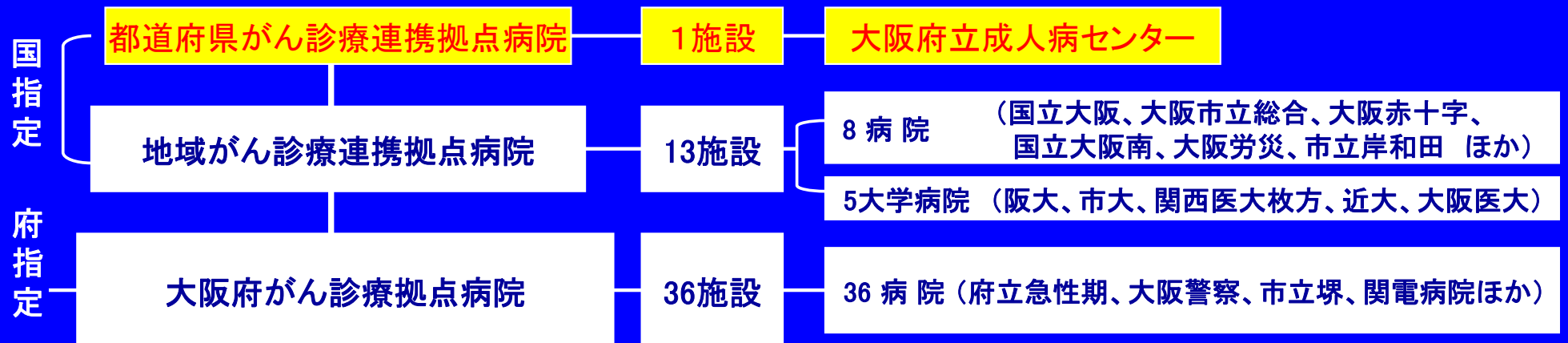
成人病センターの役割 - 3

都道府県がん診療連携拠点病院

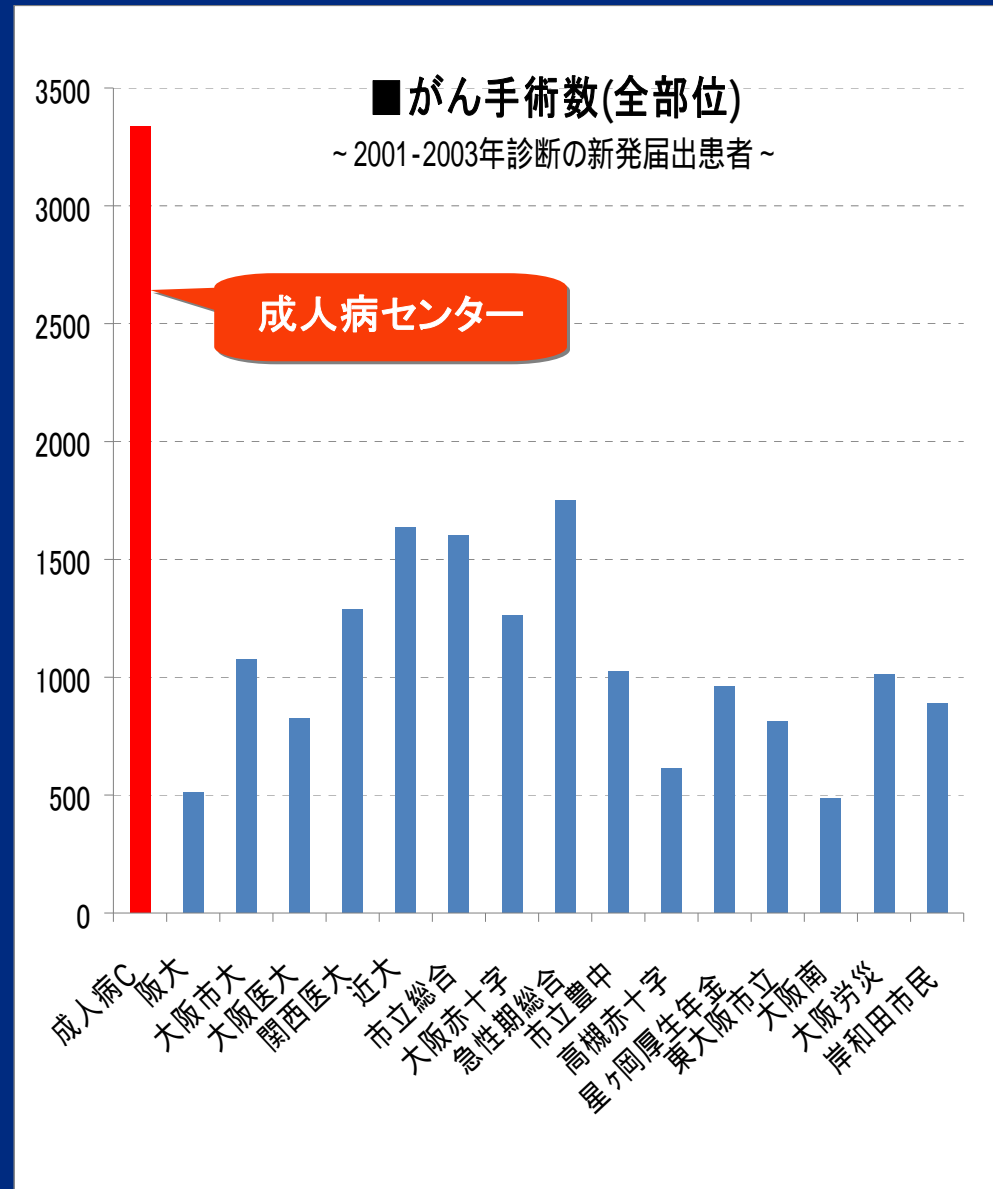
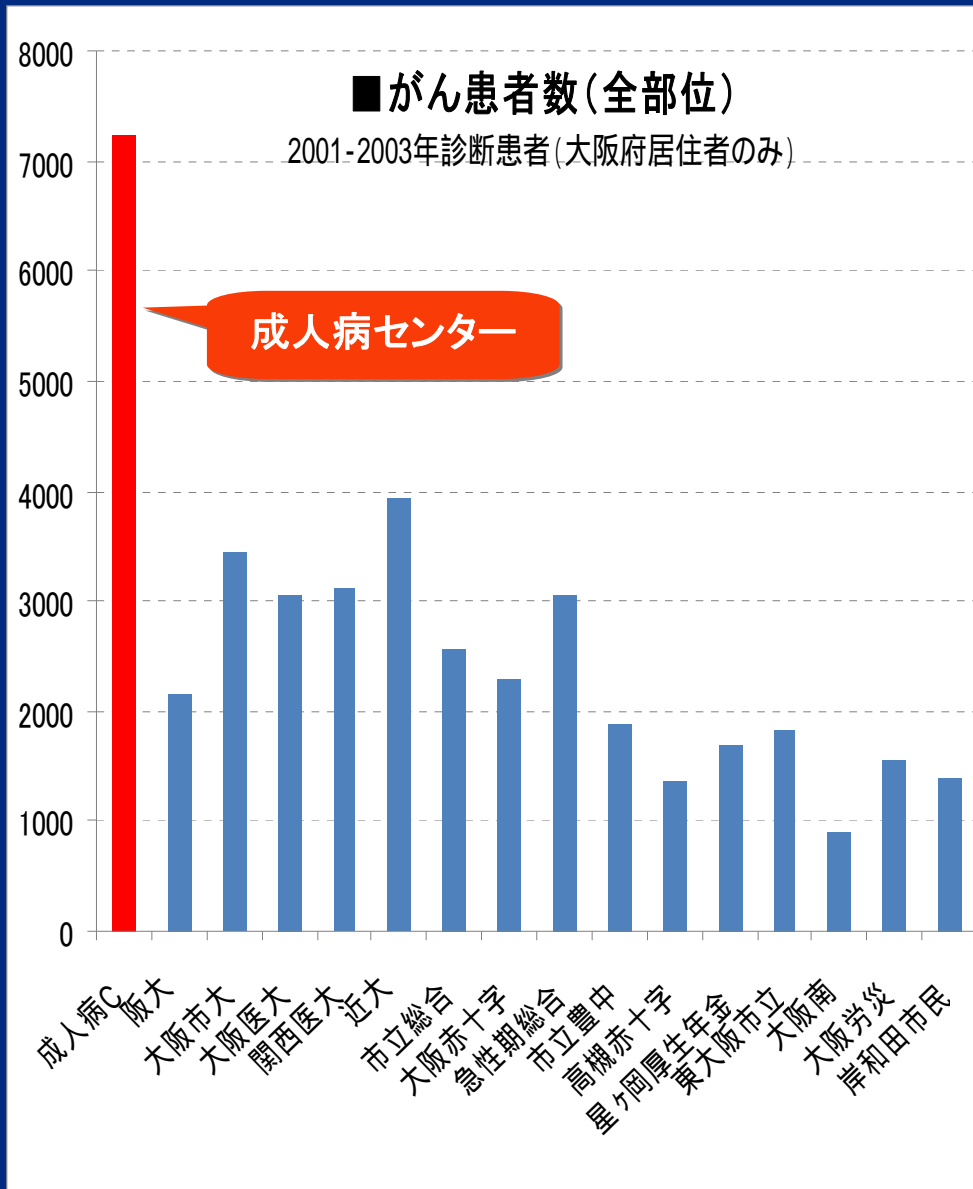
-大阪府のがん対策推進の中心的役割-

- ・ 大阪府のがん対策推進の中核施設 として国が指定
- ・ 高度ながん医療の提供、先進医療の開発、人材育成、情報提供
- ・ “東の国立がんセンター” “西の府立成人病センター”

大阪府のがん診療連携拠点病院の体制 (50施設)

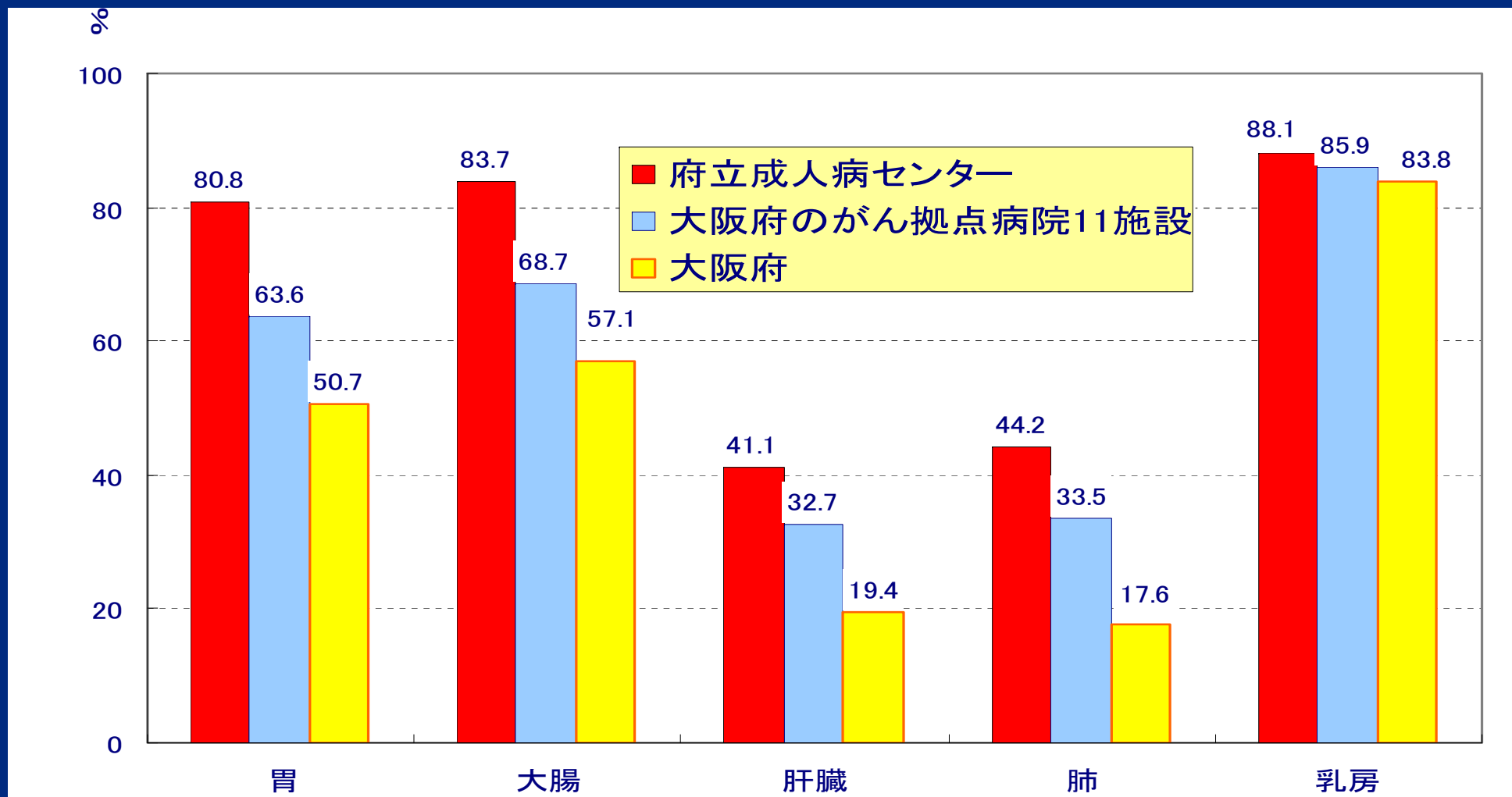


がん診療連携拠点病院との比較



5年生存率 - 1

●大阪府下で際立つ府立成人病センターの5年生存率



※この5年生存率はがん進行度は考慮していない。(1996-2000年新発届出患者)



5年生存率 - 2

●成人病センターの5年生存率は全国屈指 全部位 67.4% (cf.大阪府全体では41.9%)

●全国がん(成人病)センター協議会の公表資料(08.10.3読売新聞)では、

成人病センターは、**胃がん、肺がん、大腸がん**で**全国トップ**、**乳がん**で**7位**

胃がん

病院名	生存率 (%)
大阪府立成人病センター	81.6
新潟県立がんセンター新潟病院	78.8
山形県立中央病院	75.7
兵庫県立がんセンター	74.9
栃木県立がんセンター	73.8
神奈川県立がんセンター	73.6
宮城県立がんセンター	72.4
福井県立病院	72.4
国・九州がんセンター	71.8
千葉県がんセンター	70.6

肺がん

病院名	生存率 (%)
大阪府立成人病センター	51.5
栃木県立がんセンター	43.3
新潟県立がんセンター新潟病院	43.3
国・四国がんセンター	39.7
千葉県がんセンター	38.9
兵庫県立がんセンター	38.5
神奈川県立がんセンター	37.9
山形県立中央病院	37.2
国・九州がんセンター	35.8
国・北海道がんセンター	32.3

大腸がん

病院名	生存率 (%)
大阪府立成人病センター	83.0
—	82.3
栃木県立がんセンター	80.5
国・九州がんセンター	78.1
茨城県立中央病院	77.8
山形県立中央病院	77.7
千葉県がんセンター	75.4
兵庫県立がんセンター	74.9
新潟県立がんセンター新潟病院	73.5
神奈川県立がんセンター	72.1

乳がん

病院名	生存率 (%)
栃木県立がんセンター	94.5
福井県立病院	94.1
兵庫県立がんセンター	92.5
群馬県立がんセンター	92.1
神奈川県立がんセンター	89.0
千葉県がんセンター	88.9
大阪府立成人病センター	88.8
国・呉医療センター	88.7
国・北海道がんセンター	88.2
国・九州がんセンター	87.6

※病院名欄の「—」は、結果の公表に応じなかった施設



患者の地域分布(医療圏)

- 成人病センターの患者は、大阪府内にとどまらず、近畿圏さらには全国にまで及んでいます。

(対象:H21年度 純初診患者 6,589人)

	人数	割合
大阪市内	1,996人	30%
大阪府内(大阪市を除く)	2,947人	45%
近畿圏	1,404人	21%
その他全国	242人	4%

75%(大阪府)

96%(近畿圏)



病院建替の必要性 － ハード面の限界 －

成人病センターの役割・ミッション

特定機能病院、都道府県がん診療拠点病院



府の「がん対策」の中心となる医療機関

高度・先進的ながん
医療に対応した病院
機能

がん医療の専門人材
の育成・研修機能の
充実

がん患者や家族の支
援機能の充実

ハード面の限界

- 耐震基準を満たしていない
- 設備の老朽化 ～ 配水管の水漏れ事故、空調、冷房等改修困難
- 施設の狭隘化 ～ がん診療の高度化、医療機器の大型化に対応できず
～ 会議室・研修室・面談室等の不足
- バリアフリー対策、プライバシー確保が不十分



建替えが必要



新成人病センターのミッション

新成人病センターは、

『がんの征圧』を使命とし、

「がん医療日本一」を目指します。



成人病Cの機能強化の方向

■ 難治性がんを中心とする高度・先進的ながん医療に対応した病院機能の強化

- ・集学的な診療機能の強化
- ・再生医療、分子標的治療等の先進医療 ⇒ オーダーメイド(個別化)医療
- ・がん研究機能(横断的臨床研究)や治験推進体制の充実

■ がん医療の専門人材の育成・研修機能の強化

- ・がん専門医(放射線療法、化学療法、緩和ケア等)、医療スタッフの育成
- ・チーム医療の強化

■ がん患者や家族の支援機能の強化

- ・がん患者や家族に対する相談支援の強化
- ・療養環境の整備
- ・個室率のアップ、病床1床当り面積の拡充



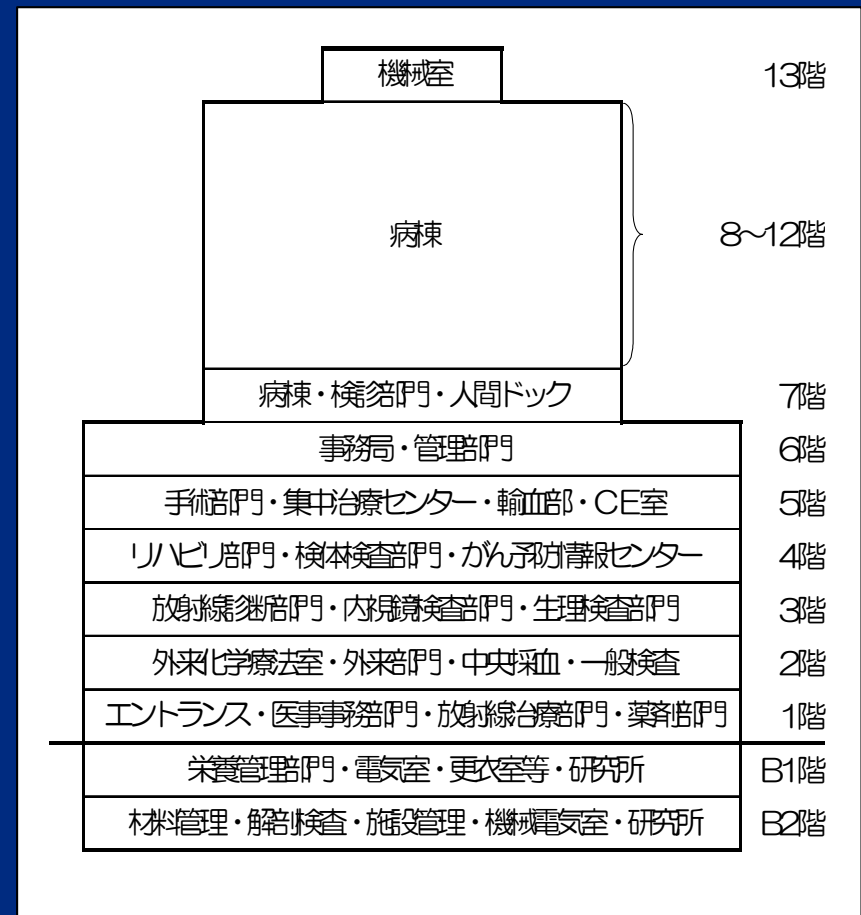
新成人病センターの整備内容 - 1

○敷地面積 約12,000m²

○延床面積 約65,000m²

○病床数 500床

《 階層構成イメージ 》



部門別延床面積比較

	現病院	新病院	増減要因
外来部門	2,600	4,300	外来化学療法室の拡充
病棟部門	14,000	19,000	個室の増加
診療部門	9,000	13,800	放射線部門の拡充
その他	32,000	27,900	管理部門等の精査
合計	57,600	65,000	



新成人病センターの整備内容 ー2

■ 施設

- ・外来化学療法室の増加（20床 ⇒ 40床程度）
- ・手術室の増室（10室 ⇒ 12室程度）
- ・ICUの増床（6床 ⇒ 8床程度）
- ・個室率の増加（30%程度 ⇒ 50%程度）

■ 医療機器

- ・リニアックの増加（2台 ⇒ 5台程度）
- ・CT、MRIの増設
- ・最先端医療機器（重粒子線・陽子線治療機器、BNCT等）の導入検討



成人病センターの先進医療と将来構想

●最適手術の実現

- ・迅速遺伝子診断
- ・ナビゲーション手術
- ・術中臍分割細胞診
- ・センチネルリンパ節生検
- ・赤外線を用いた肝がん娘結節の検出
- ・接触内視鏡を用いたreal-time診断

●再生医療

- ・肝再生による肝がん治療適応拡大
- ・リンパ管再生と浮腫治療
- ・骨髄移植(白血病・血管再生)

●放射線治療

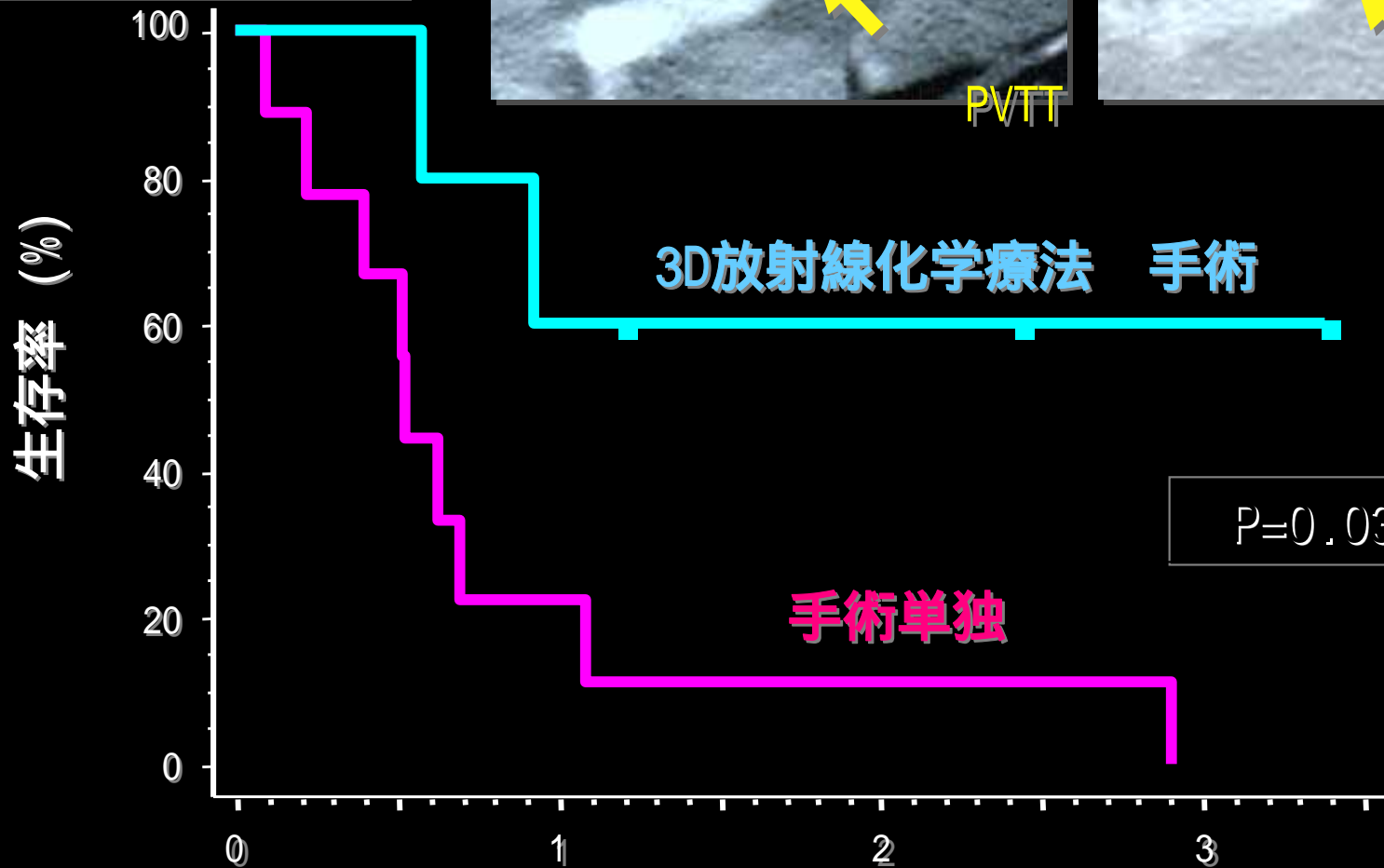
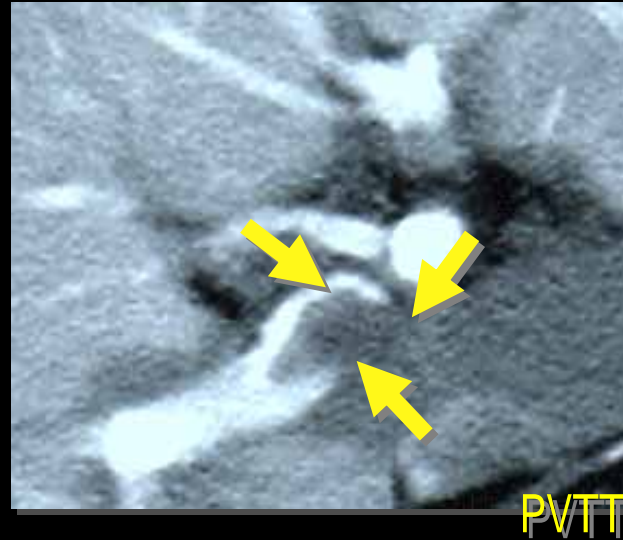
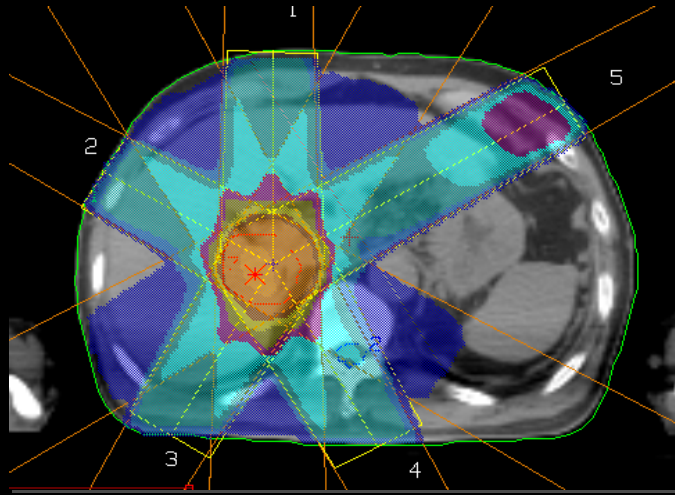
- ・3次元から4次元の照射
- ・分子標的治療薬の開発

●今後の展望

- ・遺伝子診断による効果・副作用予測
- ・粒子線治療
- ・遺伝子治療(悪性中皮腫・肉腫)
- ・Phase-I治験の推進
- ・国際化の推進

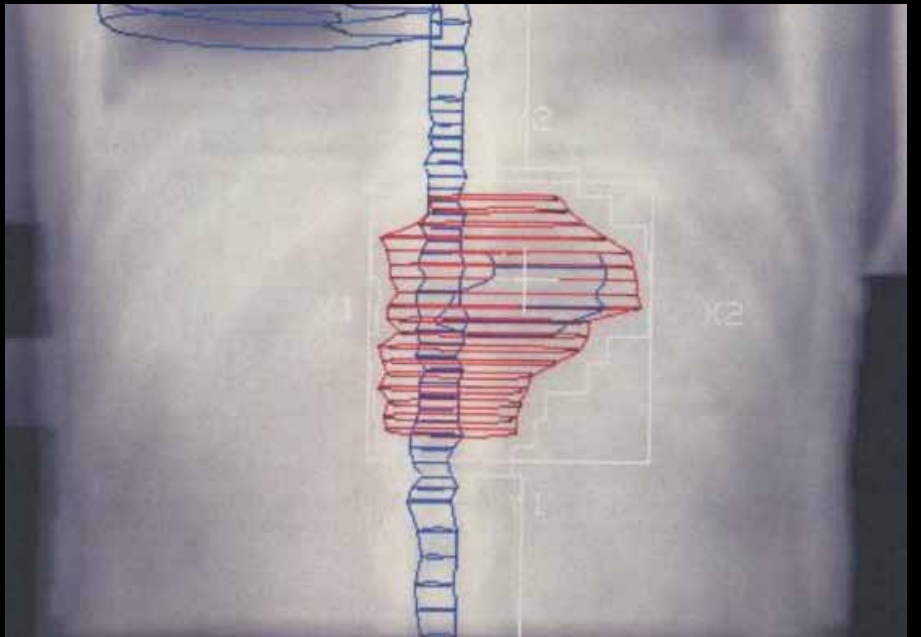
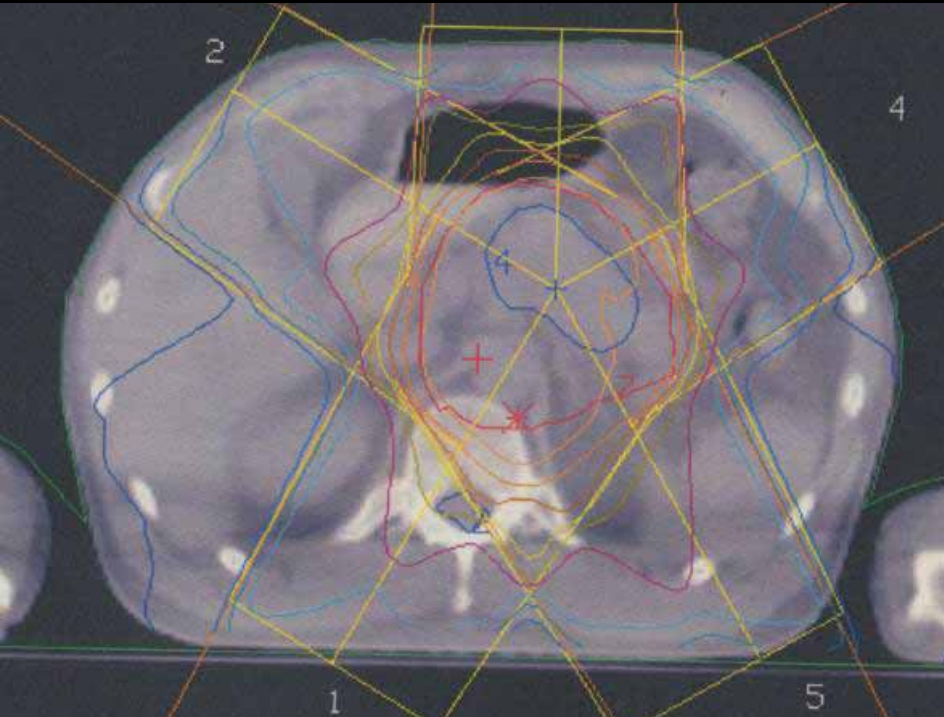
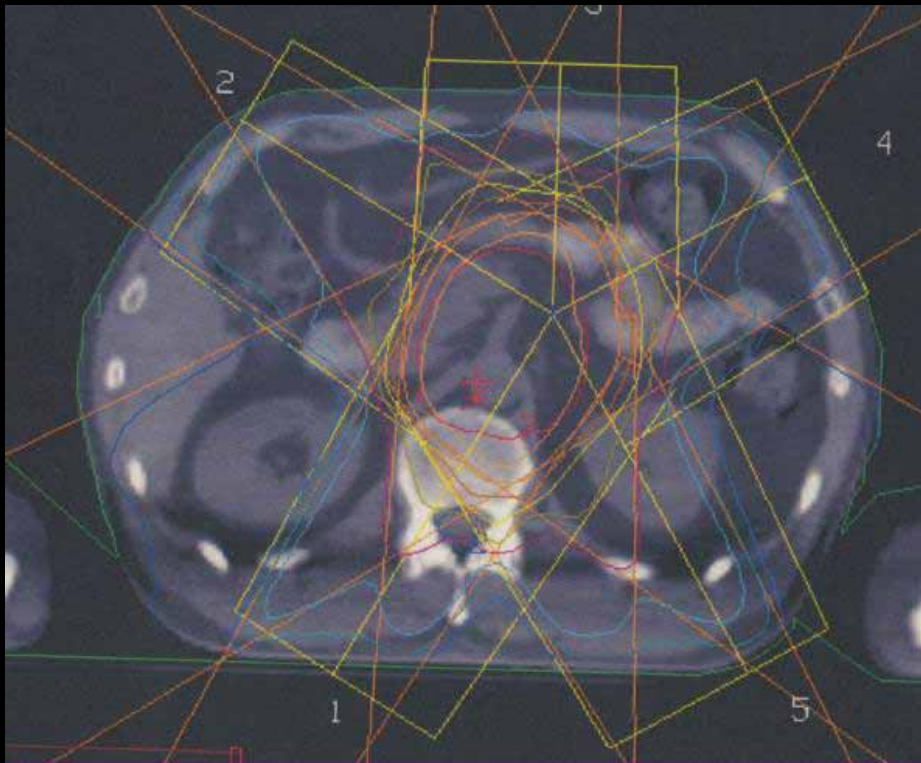


門脈内腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する術前3D 放射線化学療法



200

To. VIII
INTER



接觸內視鏡

Contact endoscope



接触内視鏡による門脈浸潤のreal-time診断 (術前治療あり)

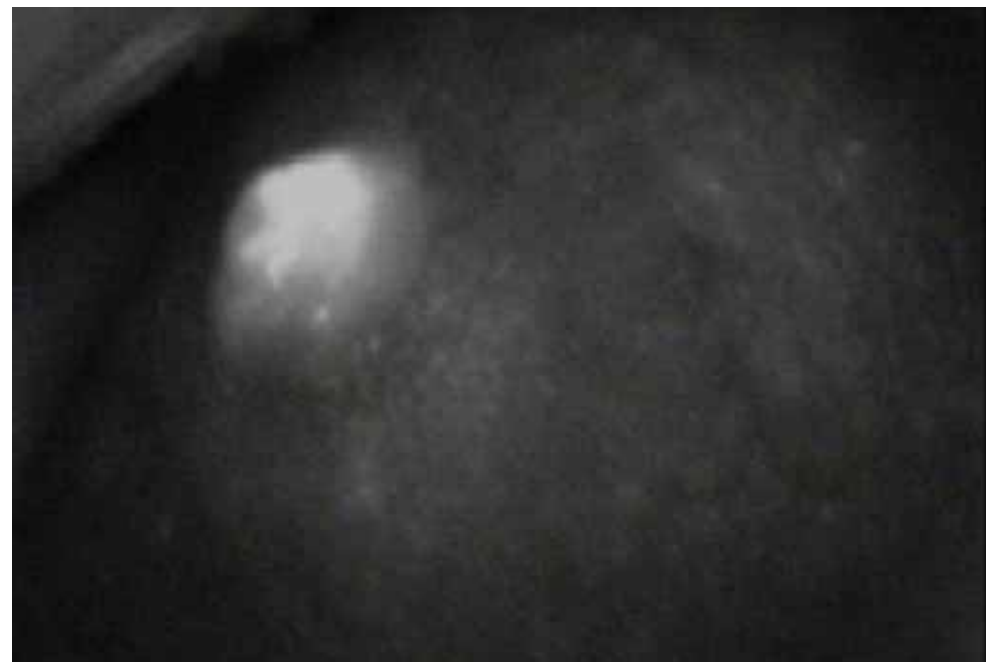
陰性



陽性



近赤外線による肝がん娘結節の検索

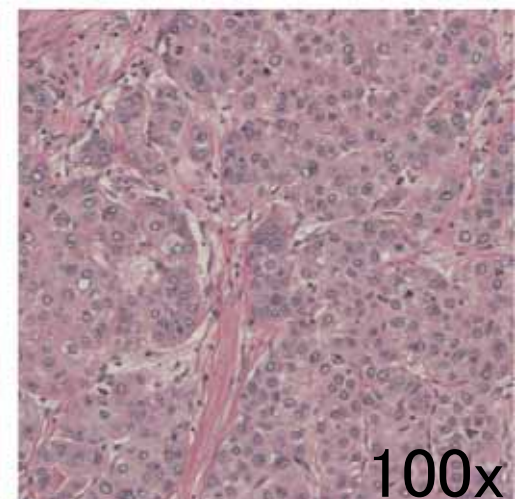
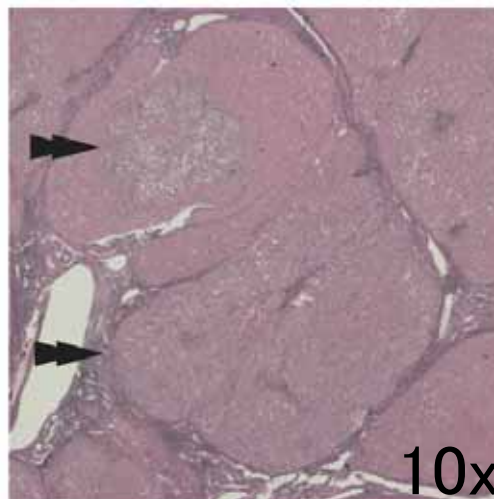
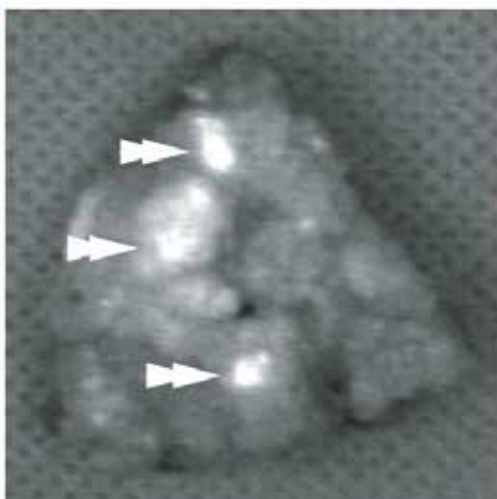
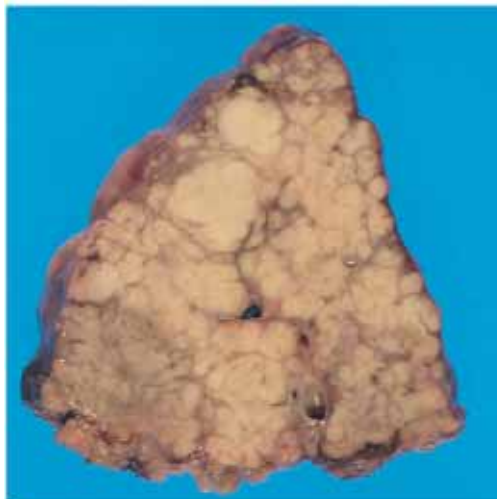
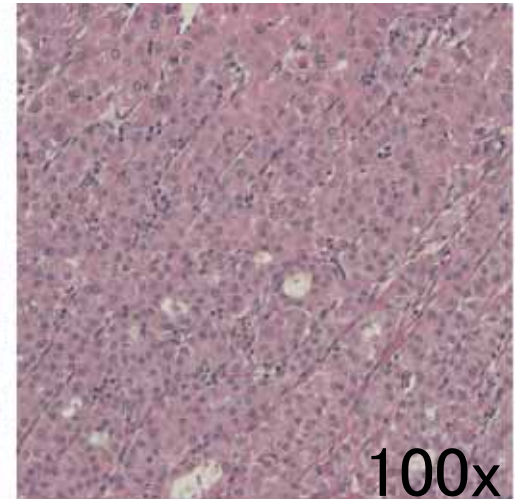
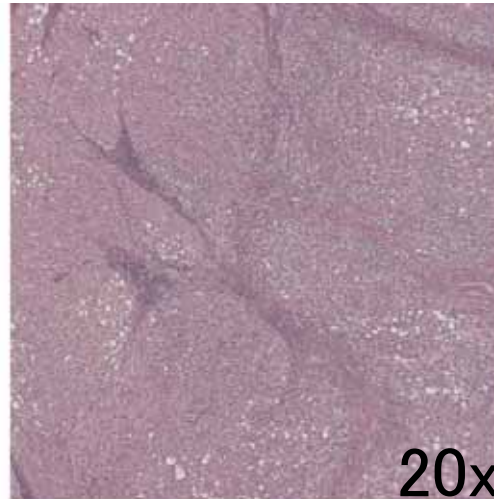
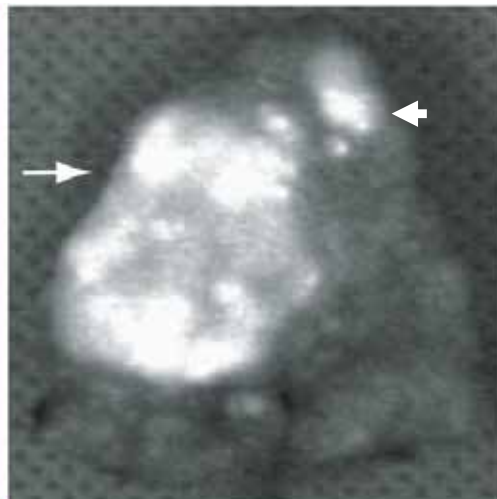
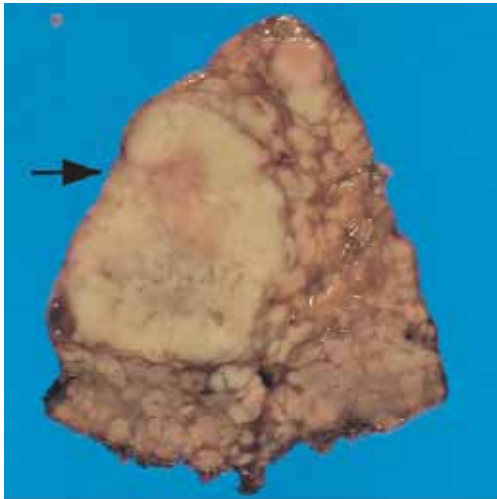


近赤外光を肝に照射すると、肝がんから蛍光が出る。
(術前に注射したICG色素が肝がん内に残留している)

※国際特許出願中

摘出標本

主病巣(上段: 25mm)と副病巣(4-10mm)

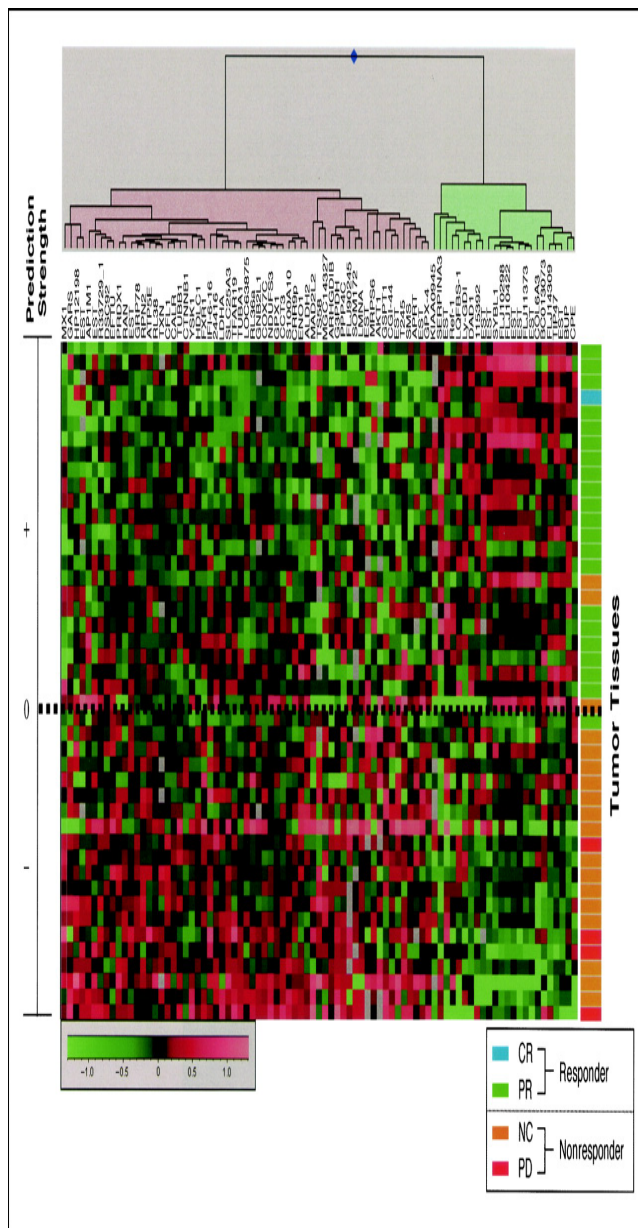


個別化医療

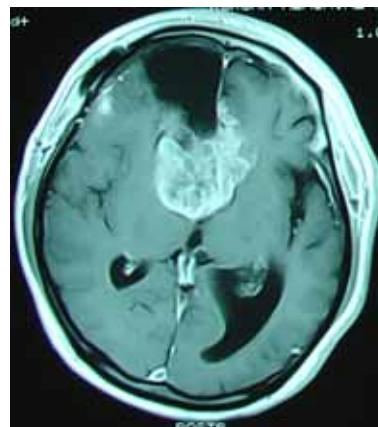
- 副作用の予測
- 有効性の判定

神経膠腫

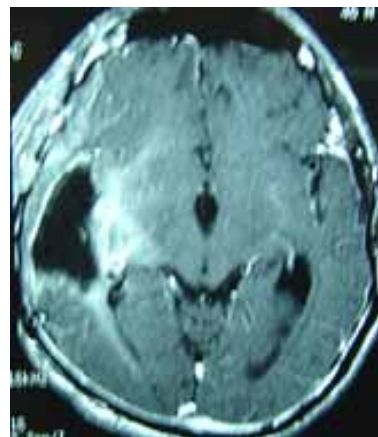
3年 再発なし



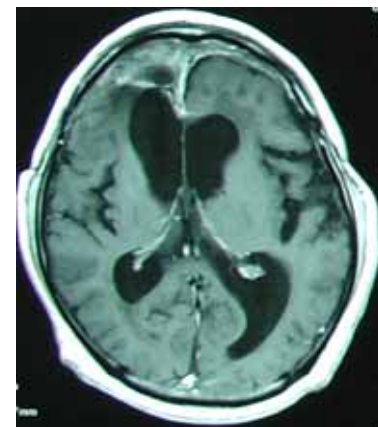
有効



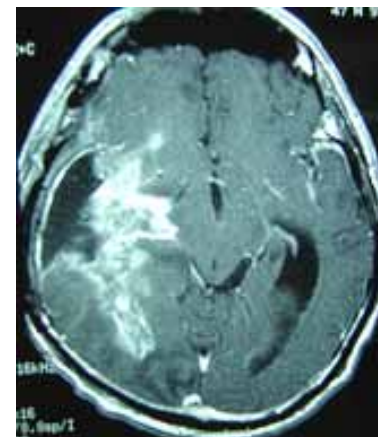
無効



抗がん剤治療

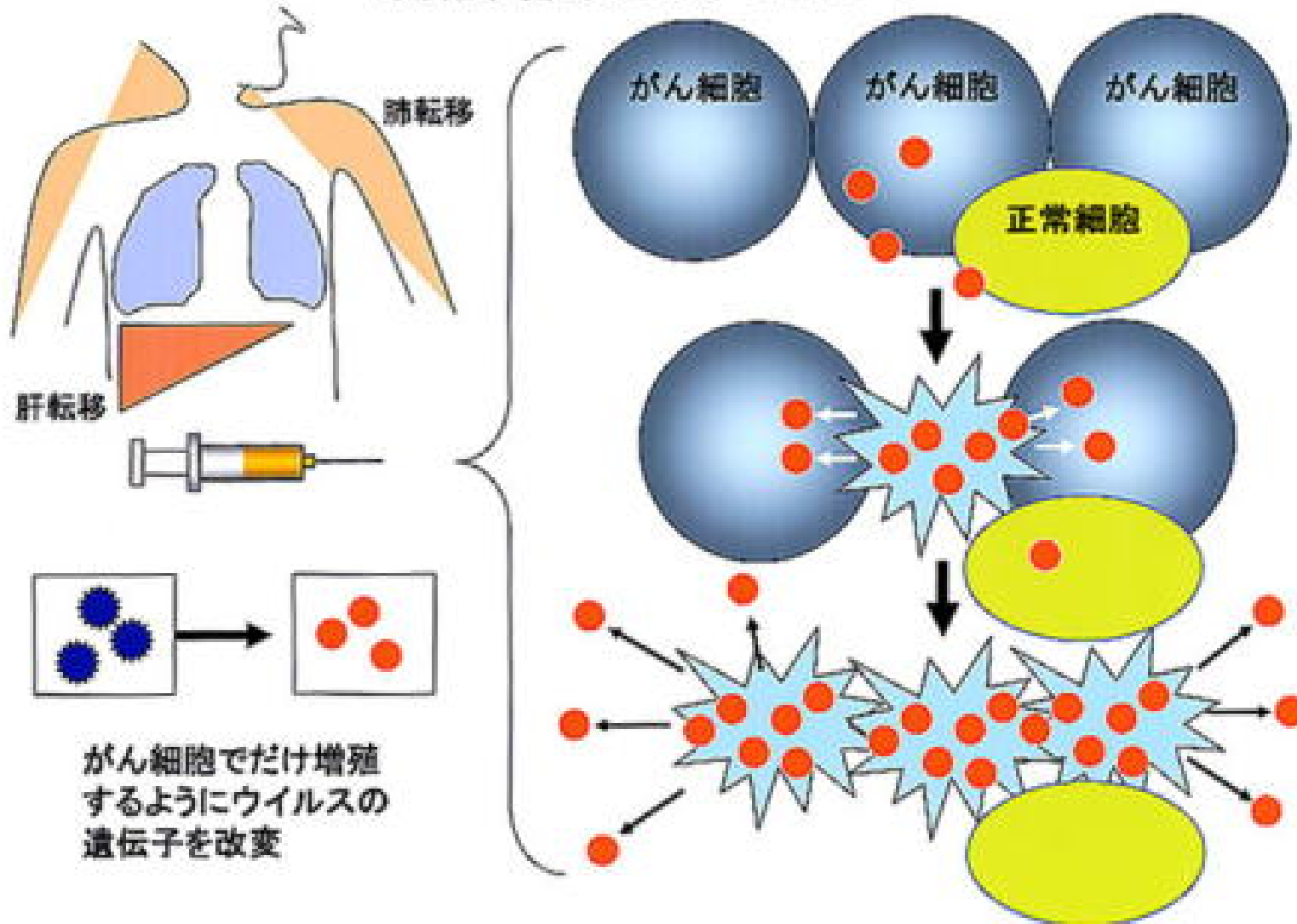


10ヶ月後死亡



がんの遺伝子治療

制限増殖型ウイルス



悪性中皮腫遺伝子治療臨床試験の進捗

平成18-19年度

平成20年度

平成21年度

平成22-23年度

厚生労働省 厚生労働科研創薬基盤推進事業

現在

産・官・学連携クボタプロジェクト(SMTRC)

文部科学省基盤研究 (A)、(C)

ウイルス製造用
Vero細胞の製造

ウイルス医薬製造・生物学的評価試験

試験計画書の提出

院内倫理審査委員会

国内ワクチンメーカー化血研との共同

英国
(グラスゴー)

厚生労働省
遺伝子治療臨床研究
審査委員

大阪府立
成人病センター

対象疾患：
悪性中皮腫・肉腫



大阪府立成人病
センター研究所
病態生理学部門
に設置の無菌室

大阪府立成人病センター組織バンク構想

大阪府立成人病センター病院、研究所、がん予防情報センター（調査部）各部門の連携のもと、組織材料を系統的にストックし、センター内外の研究者に提供する。

検体の種類

目的

手術標本より作成される
Tissue microarray (TMA)

タンパク質、遺伝子発現の検討

凍結標本

DNA, RNA, タンパク質の
抽出、保存

初代培養細胞

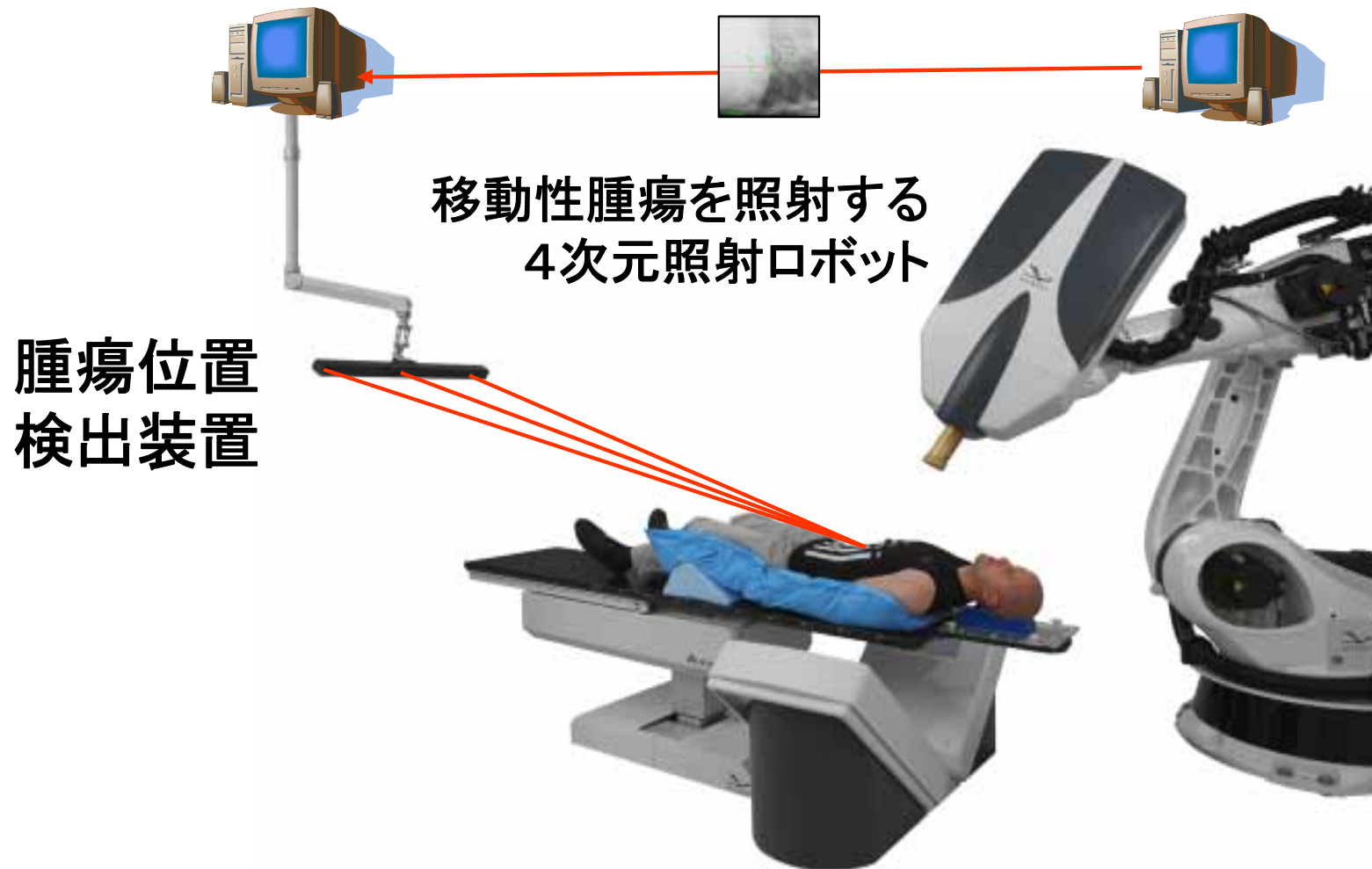
分化を抑えた細胞株の作成



くりぬいた試料とくりぬいた後のパラフィンブロック、作製したTMA

4次元 放射線治療

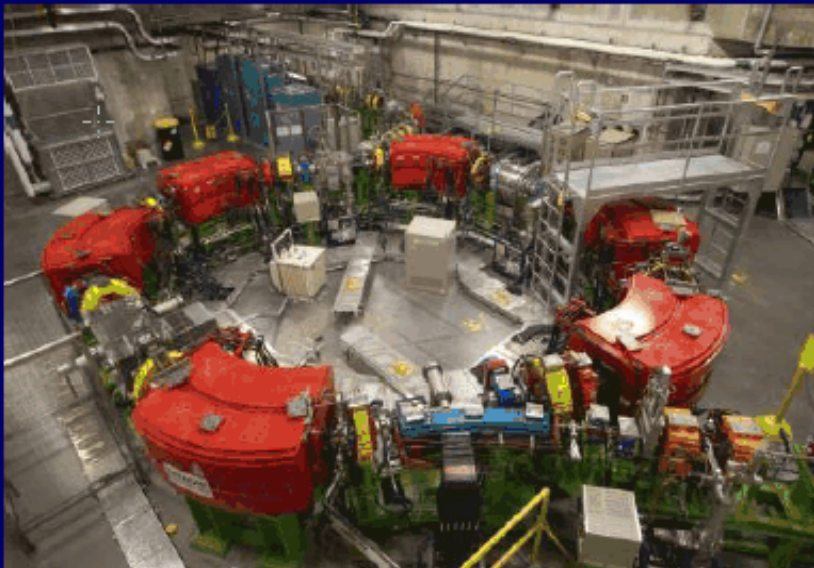
呼吸で移動する腫瘍を追尾しながらのピンポイント照射



ロボット手術



- Three Rotating Gantry and One Fixed Beam Rooms
 - > Spot Scanning : G3, and Passive : G1, G2 and Fixed
- Operation Start : Passive in '06 and Scanning in '08, May
- Treatment over 100 Patients/Day



Synchrotron (70-250MeV)



Gantry Treatment Room

大阪府立成人病センターは

医療スタッフはもちろん
治療を受ける患者さんも
誇りをもてる医療機関
でありたいと考えています。